

令和元年10月改訂	令和2年1月改訂	備考
<div>1.3 定期点検の体制</div> <div><div>(1) 定期点検のうち、対策区分の判定及び健全性の診断や関連する所見の提示、及び、このために必要な状態の把握は、これらの一連を適正に行うために必要な橋梁に関する知識及び技能を有する者が行わなければならない（以下、診断者）。</div><div>(2) この他にこの定期点検要領が求める変状の記録、定期点検を適正に行うために必要とされる作業や安全管理などについても、それぞれの記録、作業、安全管理等に適正な能力を有するものが行わねばならない。定期点検は、これを適正に行うために必要な橋梁に関する知識及び技能を有する者が行わなければならない（以下、点検者）。</div></div> <div><div>【解 説】</div><div>橋梁は、様々な材料や構造が用いられ、また、様々な地盤条件、交通及びその他周辺条件におかれること、また、これらによって、変状が橋梁に与える影響、変状の原因や進行も異なることから、橋梁の状態と措置の必要性の関係を定型化し難い。また、記録に残す情報なども、想定される活用方法に応じて適宜取捨選択する必要がある。</div><div>そこで、健全性の診断において適切な評価を行うためには、定期点検および診断を行う者が橋梁の構造や部材の状態の評価に必要な知識および技能を有していることとする。</div><div>なお、点検者は橋梁の「変状程度の評価」と「変状の記録」、診断者は点検結果に基づき変状の原因や進行状況など考慮した「対策区分の判定」を行うものとする。また、この対策区分を基に「部材単位の健全性」および、「橋梁毎の健全性」を診断する。</div><div>診断者が行う対策区分の判定や健全性の診断は、道路管理者による最終判断ではなく、あくまでも診断者が得た情報から行う一次的な評価としての所見、助言的なものであり、対策区分の判定や健全性の診断に関する最終判断、すなわち措置の意思決定は、別途、道路管理者が行わなければならない。</div><div>このとき、道路管理者は状態に応じて詳細調査の実施や別途専門的知識を有する有識者の助言を得て措置の意思決定を行う必要がある場合もある。</div><div><u>当面の間は、点検者・診断者は以下のいずれかの要件に該当する者が行うこととする。</u></div><div><div>・橋梁に関する相応の資格または相当の実務経験を有すること</div><div>・橋梁の設計、施工、管理に関する相当の専門知識を有すること</div><div>・橋梁の点検に関する相当の技術と実務経験を有すること</div></div></div>	<div>1.3 定期点検の体制</div> <div><div>(1) 定期点検のうち、対策区分の判定及び健全性の診断や関連する所見の提示、及び、このために必要な状態の把握は、これらの一連を適正に行うために必要な橋梁に関する知識及び技能を有する者が行わなければならない（以下、診断者）。</div><div>(2) この他にこの定期点検要領が求める変状の記録、定期点検を適正に行うために必要とされる作業や安全管理などについても、それぞれの記録、作業、安全管理等に適正な能力を有するものが行わねばならない。定期点検は、これを適正に行うために必要な橋梁に関する知識及び技能を有する者が行わなければならない（以下、点検者）。</div></div> <div><u>点検者は点検者リーダーと点検者補助員で構成される体制を基本とする。</u></div> <div><div>【解 説】</div><div>橋梁は、様々な材料や構造が用いられ、また、様々な地盤条件、交通及びその他周辺条件におかれること、また、これらによって、変状が橋梁に与える影響、変状の原因や進行も異なることから、橋梁の状態と措置の必要性の関係を定型化し難い。また、記録に残す情報なども、想定される活用方法に応じて適宜取捨選択する必要がある。</div><div>そこで、健全性の診断において適切な評価を行うためには、定期点検および診断を行う者が橋梁の構造や部材の状態の評価に必要な知識および技能を有していることとする。</div><div>なお、点検者は橋梁の「変状程度の評価」と「変状の記録」、診断者は点検結果に基づき変状の原因や進行状況など考慮した「対策区分の判定」を行うものとする。また、この対策区分を基に「部材単位の健全性」および、「橋梁毎の健全性」を診断する。</div><div>診断者が行う対策区分の判定や健全性の診断は、道路管理者による最終判断ではなく、あくまでも診断者が得た情報から行う一次的な評価としての所見、助言的なものであり、対策区分の判定や健全性の診断に関する最終判断、すなわち措置の意思決定は、別途、道路管理者が行わなければならない。</div><div>このとき、道路管理者は状態に応じて詳細調査の実施や別途専門的知識を有する有識者の助言を得て措置の意思決定を行う必要がある場合もある。</div><div><u>診断者は以下の要件とし、点検者は当面の間(※1) 以下のいずれかの要件に該当する者が行うこととする。</u></div><div><u>【診断者】</u></div><div><u>橋梁に関する国家資格または国土交通省登録民間資格を有すること。</u></div><div><u>【点検者リーダー】(※2)</u></div><div><u>1 点検業務で1名以上が橋梁に関する国家資格または国土交通省登録民間資格もしくは、令和2年度以降に北海道が共催する「橋梁点検に関する講習会」の受講証明書を有すること。なお、管理技術者（橋梁に関する国家資格または国土交通省登録民間資格を有するもの）は点検者リーダーを兼ねることができる。</u></div><div><u>【点検者補助員】(※3)</u></div><div><u>令和2年度以降に北海道が共催する「橋梁点検に関する講習会」の受講証明書を有することもしくは、建設管理部所管の委託業務の実務経験を有すること。</u></div><div><u>※1 当面の間とは、2巡目の点検が終了する令和5年度までの暫定的な猶予期間とする。</u></div><div><u>3巡目点検（令和6年度）からは、原則として、点検者リーダーは、橋梁に関する国家資格または国土交通省登録民間資格を有することを要件とする。</u></div><div><u>※2 点検者リーダーとは、点検作業班を統括し、安全管理に留意して各点検者補助員の行動を掌握するとともに、点検者補助員と連絡を密にして点検調査を実施する者をいう。</u></div><div><u>※3 点検者補助員とは、点検者リーダーの指示により点検調査を行う者をいう。</u></div><div><u>【 国土交通省登録民間資格：国交省 HP 参照 】</u></div></div>	橋梁点検者及び診断者について、業務に必要な資格等を記載